

長久手人

File No. 14

長久手人の氏名

ニシオカ ミチハル
西岡 道治

活動内容

子どもにとって一番良い環境を～愛を育む里親

Q1 活動内容と始めたきっかけは？

15年程前から、子ども(里子)を預かる養育里親をしています。里子に来るお子さんの理由は様々です。預かる期間も、数日から大人になるまでの長期間まで、これも様々です。また、養子縁組をして戸籍上も親子になる縁組里親さんとは、共に協力・支え合う関係です。自身の子どもも4人いて、仕事は別にあるものの、里親をされている方の姿を見て自分もやってみようと思って始めて以来、今まで途切れることなく里子を迎え入れています。

Q2 「この」活動の「ここ」が面白い！ やりがいがある！と思う事は？

里親制度は、あくまで子どもが主役であり、子どもが幸せになるためのものです。一定期間を“家族”として暮らします。子どもにとって、一番良い環境づくりは何かを、いつも考えています。持って生まれた個性は、そう簡単には変わるものではありませんが、人間関係も含めて、環境の力で修正したり、長所を伸ばしたりすることはできます。それが面白みであり、やりがいです。里子を預かるのに、色々な不安はつきまとうけれど、子どもとの出会いにわくわくします。

Q3 ずばり！ あなたが考える「幸せ」とは？

我が家に里子として迎えた子が、幸せになってくれることが一番です。結婚式に呼ばれたりした里親もあり、本当に嬉しく思います。また、自身の子どもは、里子との出会い、別れをともに経験し、たくさんの学びを得られたことは、とても貴重であったと感じています。楽しいことばかりではないけれど、人との出会いが自分を刺激してくれ、また、支えてくれることが自分にとっての幸せです。

Q4 フリーメッセージ (例)将来の目標、参加の呼びかけ

「子どもにとって居心地のいいまち」にしたいです。子どもにとって居心地のいいまちは、大人にとってもいいまちであると思います。子育てはとても大変で、たくさんの困りごとが出てきます。そのときに助け合い、支え合えるチャンスや仕組みが多いと、安心して子育てができます。里親になってくれる人はもちろん、いわゆる子育て応援隊になってくれる人を探しています。



インタビューの様子



子どもたちとのボーリング大会の様子

取材者(ユッキー)のコメント

自身の子育てをしながら里子も育てている西岡さん。自分の子どもと里子と混ざって暮らすという姿には多様な人々が暮らす“まちづくり”の姿にも似ているのかなと思いました。また、困りごとができた時に選択肢が多いことは、子育てに限らず様々な面で幸せに繋がるヒントだと感じました。